



1970年代に使用していた旧ロゴマークです

株式会社岡本銘木店

OKAMEI CO.,LTD.

- **本社**
〒564-0001 大阪府吹田市岸部北5丁目32番1号
TEL 06-6388-3411 / FAX 06-6387-9717
- **泉南支店**
〒598-0002 大阪府泉佐野市中庄322番地
TEL 072-464-0801 / FAX 072-464-6232
- **心斎橋 CAD センター**
〒542-0081 大阪府大阪市中央区南船場4-13-12
南船場OMビル4F
TEL 06-4963-7880 / FAX 06-4963-7888
- **鳥飼支店**
〒566-0063 大阪府摂津市鳥飼銘木町9番10号
TEL 072-654-5435 / FAX 072-653-1278
- **三田工場**
〒669-1349 兵庫県三田市大川瀬大滝1510番地-1
TEL 079-568-2657 / FAX 079-568-2658
- **京都工場**
〒614-8101 京都府八幡市川口浜37番1号
TEL 075-972-4110 / FAX 075-972-4130
- **四日市支店**
〒510-0845 三重県四日市市海山道町3丁目66番地
TEL 059-340-3761 / FAX 059-340-3762
- **本店営業部**
〒564-0001 大阪府吹田市岸部北5丁目32番1号
TEL 06-6388-1281 / FAX 06-6389-3781
- **姫路支店**
〒679-2161 兵庫県姫路市香寺町溝口987-2
TEL 079-232-9777 / FAX 079-232-9888
- **国際企画部**
〒542-0081 大阪府大阪市中央区南船場4-13-12
南船場OMビル4F
TEL 06-6245-1333 / FAX 06-6245-1353
- **東条支店**
〒673-1331 兵庫県加東市森尾127-43
TEL 0795-46-2233 / FAX 0795-46-2244
- **滋賀支店**
〒520-3041 滋賀県栗東市出庭442番地1
TEL 077-553-5181 / FAX 077-553-9235
- **奈良支店**
〒639-1119 奈良県大和郡山市発志院町150番
TEL 0743-56-3321 / FAX 0743-56-5431

株式会社ベターホーム

〒564-0001 大阪府吹田市岸部北5丁目30番1号3F / TEL 06-6387-5557 / FAX 06-6380-7171

抗酸化陶板浴オカメイ

〒564-0001 大阪府吹田市岸部北5丁目31番14号東千里OMパレス2号館内 / TEL 06-6338-9131 / FAX 06-6338-9132

株式会社オーエムエステート

〒564-0001 大阪府吹田市岸部北5丁目30番1号3F / TEL 06-6387-7336 / FAX 06-6380-7171

OKAMEI KOREA Co., Ltd.

809. 57-2, Heungan-daero 427beon-gil, Dongan-gu, Anyang-si, Gyeonggi-do, Republic of Korea / Tel: +82 31-348-4110 / Fax: +82 31-348-4116

<https://okamei.co.jp> info@okamei.co.jp



Message

ごあいさつ

オカメイは
歴史を育みながら進化し、
時代のニーズに応えます。

令和の幕が開け、わが社も新しい時代に応じた変革をするべく様々なことにチャレンジしています。近年は、非住宅部門の拡張、施工部門の充実、海外事業の展開など、多くの課題に向き合ってきました。また、社名にもある「銘木」との関わりを未来に発展的に繋げていくために、Pregnostyle という木工家具のブランドを立ち上げるなど、社員が一丸となって積極的に前進する姿勢を大切にしています。

私は元々子会社である株式会社ベターホームの社長を約 30 年間勤めてまいりました。当初は知識も経験も浅く、悪戦苦闘の日々でしたが、自ら体験することで岡本銘木店のお客様である工務店の立場がよくわかるようになりました。

ですから私の祖父であり創業者の父の言葉である「お得意先、会社、社員が共に繁栄し、社会に貢献する」という精神は決して廃れさせることなく、守り続けていきたいと思っています。そのために、当社の社員には、まず自分の家族を大事にすること、そしてお客様の立場に立って行動すること、会社のまわりを清掃し近所の方々に挨拶をすることを常日頃から伝えています。社会に貢献することは、決して大きな事ではなく、しっかりと愛情を持って小さな事を積み重ねていくということなのです。

社会の変化に遅れることなく、創業の思いをしっかりと胸に留め、岡本銘木店は今後も更に邁進いたします。



株式会社岡本銘木店 代表取締役
佐藤 朋子

SDGs Sustainable Development Goals

SDGs（持続可能な開発目標）への取り組み



これまでも、これからも - オカメイの SDGs

国連が採択した、2030 年までに持続可能な世界を実現するための 17 の指標、SDGs。私たちは地域社会や自然環境に携わる企業として、これまでに実行してきた項目と、これから更に力を入れていきたい 9 つの項目を掲げ、これに真摯に向き合い、積極的に取り組んでいくことを約束します。

11 木材の利用を広め地球温暖化を防止

13 15
木材には CO₂ を吸収して固定する力があります。一般的な木造住宅を 1 棟建てると 15 トンもの CO₂ が固定されることとなり、大気中に CO₂ を戻さないことで気候変動への対策となります。

5 8 10 女性が働きやすい職場に

3 代目の女性社長を中心に、女性と男性が肩を並べて活躍できる職場環境が実現しました。外国籍技術員の雇用を促進するなど、性別や国籍や障がいの有無に関わらず、誰もが働きがいのある職場を目指します。

11 12 13 古き良きを次世代に受け継ぐ

リノベーション事業の一環である「古民家再生プロジェクト」を通じて、使われなくなった資源を再生して次世代に残す試みに取り組んでいます。古い資産と新しい暮らしの共存は私たちの使命です。

3 7 11 人々の健康と安全を守る

住宅の温熱性能や耐震性能を改善する技術を積極的に提案し、家づくりを通じて人々の健康と安全を守ります。ゼロエネルギー住宅や長期優良住宅など、国が認定する人と地球に優しい住まいの普及に努めます。

※ SDGs について詳しくは国際連合や外務省のサイトをご覧ください。

History

沿革

昭和から令和へ
時代とともに歩み続けるオカメイ

OKAMEI
1.0

1951-1962

高度経済成長 期。
住宅はまだ和室が中心で、
欄間の需要が拡大。

- 1951 年 3 月 大阪市南区横堀にて創業
- 1955 年 4 月 住吉工場開設
- 1959 年 6 月 資本金300万円で
株式会社に改組
- 1960 年 5 月 鳥飼支店開設
- 1962 年 5 月 吹田支店開設

OKAMEI
2.0

1963-1987

ハウスメーカー勃興期。
積水ハウス、旭化成からの受注増加で
関西各地に支店開設。

- 1970 年 5 月 現在の吹田市岸部に本社移転
- 1974 年 10 月 加古川支店開設
- 1975 年 2 月 奈良支店開設
- 1977 年 10 月 滋賀支店開設
- 1979 年 1 月 資本金を現在の7,500万円に増資
- 1980 年 12 月 泉南支店開設
- 1985 年 9 月 京都支店開設
- 1985 年 9 月 株式会社ベターホーム開設
- 1987 年 11 月 三田支店開設

OKAMEI
3.0

1988-2016

プレカット期。
製造力と品質を高め
関西一円に事業を拡大。

- 1988 年 4 月 三田工場開設
プレカットラインの導入
- 1989 年 10 月 京都支店移転
- 1995 年 8 月 神戸支店開設
- 1997 年 4 月 住吉支店開設
- 1998 年 4 月 姫路支店開設
- 1998 年 7 月 横堀支店開設
- 1999 年 7 月 摂津支店開設
- 2000 年 11 月 京都支店移設および京都工場開設（SE 構法プレカット）
- 2003 年 5 月 横堀支店と鳥飼支店を合併
- 2004 年 3 月 心斎橋CADセンター開設
- 2005 年 9 月 東条工場開設および東条支店開設
- 2006 年 4 月 加古川支店改めダイコク加古川支店開設
- 2006 年 6 月 三田支店を東条支店として移転
- 2007 年 7 月 抗酸化陶板浴オカメイ 東条開設
- 2008 年 2 月 住吉樹脂サッシ工場開設
- 2010 年 5 月 抗酸化陶板浴オカメイ 東千里開設
- 2014 年 5 月 システム住宅部改めシステム住宅支店開設
- 2015 年 3 月 四日市支店開設

OKAMEI
4.0

2016-

専門性特化期。
技術も商品も個性が鍵に。
専門性を高め多様なニーズに対応。

- 2016 年 9 月 中大規模木造建築対応加工機
「フンデガーK2i」導入
- 2018 年 2 月 Pregnostyleショールーム開設
- 2019 年 1 月 韓国にOKAMEI KOREA開設

Works

業務紹介

木造建築の未来へ 変化する材木店のスタイル

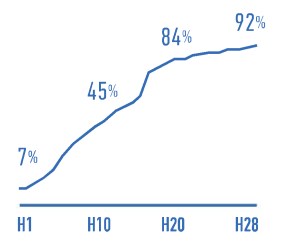
木材・プレカット



建築現場を影で支えるプレカット技術

プレカットは今や木造建築現場のワークフローの重要な要素を担っています。職人不足が深刻な昨今、短い工期と限られた人員でいかに効率良く施工するかが最優先の課題です。そこで、事前に加工された木材を最良のタイミングで納入することで、現場のリソースを最小限に抑え、安定した工期管理を可能にするのがプレカットです。今や木造住宅業界におけるプレカット木材の使用率は92%を超え、材木店である私たちにとっても主力商品のひとつになっています。

品質面においても、プレカット木材は機械生産ならではの高度な安定性と精細さを誇ります。専用 CAD でサイズや形状が納入先ごとに細かく管理され、いかなる設計や加工にも高い精度で応えることができます。兵庫県三田市と京都府八幡市にあるオカメイのプレカット工場では、汎用木材から専用の特殊加工まで様々なニーズに対応できる設備を取り揃え、住宅から非住宅まで、幅広く供給可能な体制を整えています。確かな加工技術、近畿随一の特殊設備、そして現場との親密なコミュニケーションがあるからこそ、私たちは必要な時に必要な木材をお届けできるのです。



木造軸組構法におけるプレカット率の推移（一般社団法人全国木造住宅機械プレカット協会調べ）

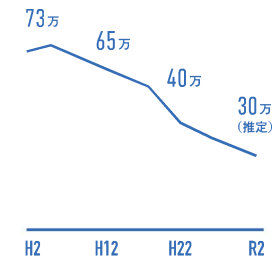


岡本銘木店
会社案内

Works

業務紹介

施工・職人派遣



大工の人数の推移（国勢調査の結果と野村総合研究所の予測）



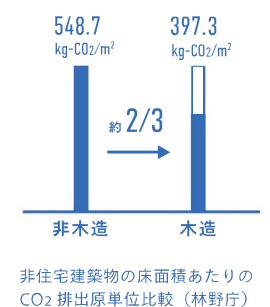
木材加工のプロが施工も請け負います

近年では非住宅や中・大規模木造建築物など、木造建築の種類が多様化する中で、大工にも常に新しい技術が求められます。全国的に深刻な大工不足に悩まされる建築業界において、岡本銘木店では木材のプロならではの知見と技術を活かした専門の職人をかかえ、建設現場に派遣しています。プレカットによる木材供給から現場の施工まで、木造建築の課題解決にワンストップで対応できるのが私たちの強みです。

非住宅木造建築

住宅から非住宅へ - 木材の可能性の追求

鉄骨造や RC 造が主流の非住宅建築において、近年木構造の可能性が注目されています。鉄やコンクリートに比べてはるかに軽量の木材は、施工面や管理面で扱いやすく、現場の工程を大幅に短縮できる利点があります。また、木造建築は材料が安価なことに加え、加工が容易なため、コスト面でも他構造に大きく差をつけることができます。岡本銘木店ではこれまで非住宅分野における最大の課題であった大型木材の加工に力を入れ、中・大規模建築の第3の選択肢としての木材利用に積極的に取り組んでいます。



岡本銘木店
会社案内

Factory

工場紹介

最大長 13 メートルの大型木材まで対応 フンデガー K2i を擁する近畿随一の加工力



※ 最大長 13 メートルの木材加工はできますが、運搬にあたり道路交通法の制約を受けることがあります。

三田工場

兵庫県三田市



フンデガー K2i を擁する生産拠点

兵庫県三田市の山間にある三田工場では、一般的な木造住宅部材の加工に加え、特殊な金物工法や大型建築物、門型フレーム、CLT など様々な種類の木材加工に対応し、近畿圏全域に建築部材を出荷しています。施設内で CAD・CAM オペレーターによる設計や生産管理を行うことで、加工現場とのシームレスな連携が可能になり、スピーディーで無駄のない業務フローを実現します。三田工場では全国でも数台しかないドイツ製の大型加工機「フンデガー K2i」を所有し、10m を超える巨大な木材を加工することができます。これは一般的な通し柱の 2 倍以上の長さに相当し、三田工場の広大な敷地があってこそできることです。木造の小学校校舎や、銀行、コンビニエンスストアなど、近年注目されている非住

宅木造建築物での採用実績も数多くあり、戸建住宅から大型木造建築物に至るまで、木造建築のためのあらゆる部材の生産・加工・出荷にトータルに対応できる総合生産拠点です。

三田工場

在来工法 + 金物工法のための柱、横架材、羽柄材等のプレカット加工 / CAD・CAM による全自動生産システム / フンデガー K2i による中大規模木造建築用部材の特殊加工



岡本銘木店会社案内

京都工場

京都府八幡市

耐震構法 SE 構法のための専用ライン

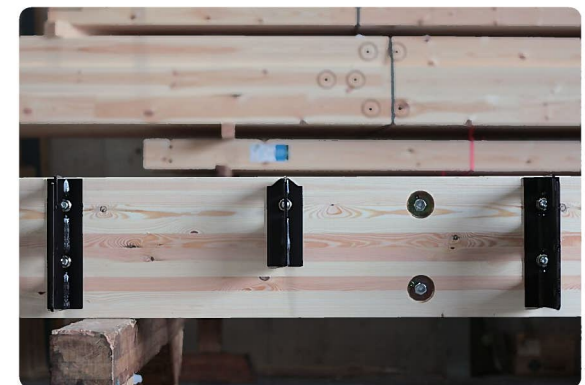
京都工場は耐震構法 SE 構法の構造材プレカットのための専用ラインです。SE 構法は強度の高いラーメン構造の木造技術で、集成材と特殊金物の組み合わせによって鉄骨造並みの耐震性能を誇ります。全国で多くの耐震住宅に採用され、近畿圏では主に岡本銘木店の京都工場からその木材が出荷されています。独自の厳しい耐震基準をクリアするために、施工は元より、木材の加工においても徹底して品質が管理されているのが特徴で、0.1mm 単位の精度を実現できる高度な加工技術と、安定した生産体制、そして高水準の品質チェックに応えられる管理体制が求められます。そのため、全国でも厳選された指定工場のみが品質協定を結び、その加工を認められています。木造住宅の耐震技術をリードする SE 構法の木材の生産を請け負うことは、岡本銘木店の加工技術と品質管理のレベルの高さを裏付けているのです。

耐震構法 SE 構法

京都工場 PEFC-CoC

全自動専用ラインによる耐震構法 SE 構法のための構造材プレカット / 特殊金物の打ち込みと取り付け

※ 耐震構法 SE 構法について詳しくは株式会社エヌ・シー・エヌのサイトをご覧ください。



岡本銘木店会社案内

Culture

欄間・Pregnostyle

伝統を守り、
未来を創造する



古き良き伝統を守る



大阪欄間

岡本銘木店では創業当初から専属の職人による大阪欄間の製造を行っています。その卓越した彫刻技術によって生み出される欄間は、日本家屋の彩りとして広く親しまれてきました。近年では住宅事情の変化や継承者不足によって欄間文化の存続が危ぶまれる中、ホテルや商業施設のインテリアとして採用されたり、海外のプロダクトデザイナーとのコラボレーションによって欄間の価値を再定義したりするなど、常に新しい可能性を模索しています。さらに岡本銘木店の鳥飼支店にある欄間工房ではワークショップを行って地域の子どもたちに欄間の魅力を伝えるなど、内外に向けて大阪欄間の魅力を発信しています。



Pregnostyle - プレグノスタイル

Pregnostyle は銘木を使った家具と雑貨のブランドです。新建材が多く使われる最近の住宅では一枚板の銘木がその魅力を発揮できる機会が減っていますが、現代的な暮らしにも合うようにデザインされた Pregnostyle は、銘木とアイアンの組み合わせによるモダンな佇まいと、無垢材ならではの木の肌合いや木目の美しさを楽しめます。テーブルやソファなどの大型家具のみならず、生活雑貨や積み木などのおもちゃまで、豊富なラインナップを展開。日常のふとした瞬間に木の素晴らしさを身近に感じていただけるアイテムとして、Pregnostyle は現代のライフスタイルに寄り添ったデザイン提案をします。



※ Pregno Balance Tower はウッドデザイン賞2019を受賞しました

新しい価値を創造する



Company Data

会社概要

商号	株式会社 岡本銘木店
本社所在地	〒564-0001 大阪府吹田市岸部北 5 丁目 32 番 1 号 TEL 06-6388-3411 / FAX 06-6387-9717
設立	昭和 34 年 6 月 20 日 (創業 昭和 26 年 3 月 1 日)
代表者	代表取締役 佐藤 朋子
資本金	7,500 万
年商	60 億円
従業員数	160 名
取引銀行	三井住友銀行 リソナ銀行 三菱 UFJ 銀行 みずほ銀行 商工組合中央金庫 滋賀銀行 山口銀行
事業内容	一般木材、銘木、集成材、住宅設備等の販売 / 美術欄間、彫刻品の加工 / プレカット加工 (在来工法・金物工法・SE 構法の構造材、羽柄材、合板) / モールドイング (造作部材) / 気密測定 / 各種工事 (システムキッチン、ユニットバス、外壁等) / 瑕疵担保保険取次 (株式会社住宅あんしん保証)

岡本銘木店 創業秘話

故岡本弘会長の手記より

昭和三年一月二八日、岡本留吉とシゲの次男として、私は当時の大阪府三島郡岸部村に生まれました。現在の吹田市です。昭和九年に岸部尋常小学校に入学すると、その年の九月に後に昭和の三大台風と称されることになる室戸台風が襲来しました。風速六〇メートルの強風によって木造二階建ての校舎はなぎ倒され、運悪く校舎の外に逃げた生徒のほとんどが倒壊した建物の下敷きになり亡くなりました。私は学校ほどの大きな建物がいとも儚く倒壊するという経験をしました。昭和五年、私は岸部村の最後の卒業生となりました。その年の四月に吹田町、千里村、豊津村、岸部村が合併して吹田市が生まれたのです。

昭和一八年一〇月に学校を仮卒業すると、当時の土木の最大手であった鹿島組に入社し、豊橋の住友金属の工事現場に赴任して軍の仕事をしました。入社当初は先輩が四、五人いましたが、半年も過ぎないうちに全員軍隊に招集され、残った私と同期入社のもう一名とで五百名ほどの作業員を率いて仕事をすることになりました。私は学校できちんと勉強ができていなかったので、仕事のイロハがわかりません。そこで下請けの監督に教えてほしいと頼みこみ、なんとか予定通りの工期で工事を進めることができました。この経験から、「いかなる時にもわからない事は聞いて教えてもらう」ことの大切さを学びました。このことは私の人生で大きな収穫となりました。

鹿島組では約五年間働きましたが、私はいつも工事を始める先発隊として現場に入り、作業員の宿舎、事務所、倉庫等の段取りをして、後から来る人が働きやすいようにと心がけていました。亀岡の大谷鉦山の工事、アースダム工事、京都の上賀茂ゴルフ場、兵庫の黒井の垂炭採掘現場をはじめ、各地の測量現場を走り回る日々で、貴重な仕事を経験しました。太平洋戦争が終わると、私は学業に戻り大阪工業大学専門学院建築科を卒業しました。いずれは父親の工務店を継ぐつもりでしたが、朝鮮戦争のおかげで日本の復興が急速に進み、インフレで木材の値段が急騰していたことを受け、父は「請負仕事は請けたら負けだ。後は継がなくていいから材木屋になれ」と言うのです。私は言われるがままに木材問屋の多い心

斎橋横堀で売り店を探しました。ある時「岩原の欄間屋の主人が亡くなって店が売りに出ている。百万円なら売る」ということで、私はすぐにその話に飛びつきました。近所の銘木屋からは高すぎると叱られましたが、欄間と銘木の天井板、床柱などを並べてみたところ、銘木はなかなか売れず、欄間が飛ぶように売れたのです。私は「よし、日本一の欄間屋になるんや!」と決心しました。東京の銘木建材新聞に開業のお知らせの広告を出して名前を売り、夜行列車で上京すると電話帳で「銘木」の欄を調べて、そこに載っていた会社を順番に廻りました。業界大手の篠田銘木店では「朝一番で御社に来ました!」と意気込んで銘木を大量に売り込みに成功しました。気を良くした私は、その後も前山銘木や本所銘木店に次々と銘木を売り、東京での成功を掴んだのです。欄間の需要が全国的に高まり、毎日忙しくなったのに加え、米国占領下にあった沖縄からも大量の注文が入り、オカメイはついに文字通りの「日本一の欄間屋」になりました。

伊丹空港に国際線が開通すると、私は一番機のキャセイ航空で台湾と香港に向かいました。台北の街角では木彫りの土産物が安く売られており、三井物産の台北支店を訪れて大阪の木材輸入業者を聞き、帰国後すぐにそのひとつの津田産業に向きました。台湾で欄間の製造工場を作る相談をして、現地の中卒一〇〇名、

高卒一〇〇名を採用しました。作業員の日当は当時の日本円で五〇円。大阪から機材を運び、三年で商売が軌道に乗りましたが、せっかく仕事を覚えた職人たちが大阪の銘木屋に引き抜かれ、それを防ぐために賃金を上げると利益も少なくなりました。台湾欄間はやがて値崩れし、十年で撤退しました。私は住吉に四〇〇坪の土地を借りて工場を作り、名古屋の畑野木材と協同で大阪初のスライサー加工を始めました。突板単板屋からの受注が増え、随分儲かりました。やがてその工場はオカメイが買い取り、住吉工場となりました。高度経済成長を迎えた昭和三〇年ごろには、これからは自動車の時代だからとインターチェンジの近くに三〇〇坪の土地を買い、社員五名、売上三〇〇万円を目標に次々と支店を増やし、計一九支店となったところで増設を止めました。好景気の時代とは言え、社員の協力あってこそ成功だったことは間違いありません。私は本当に運の強い人間でした。常に自分のやっている仕事の一年先、三年先、五年、十五年、三十年先を見越して計画を立てたことも、オカメイが今日まで続く秘訣だったと思います。これらの人口減の時代においては、新築住宅の需要は減っていくことでしょう。私たち材木屋には何ができるでしょう?そんな時代だからこそ、変化を恐れずに前進するオカメイの新しい姿にご期待下さい。